

講演会及び研究集会の記録

平成26年度弘前大学高大連携シンポジウム

テーマ「キャリア教育における高大連携の模索 — キャリアサポートから見る高大連携 —」

21世紀教育センター 小 玉 正 志

本学では、21世紀教育センター主催で、高校との連携のあり方を考える高大連携シンポジウムを毎年開催しています。このシンポジウムでは、英語教育や理科教育のあり方、作文指導の方法及び国際化など多岐にわたるトピックを取り上げてきました。そして、平成25年度は、「キャリア教育」について行われ、高校・大学・企業の立場から生涯にわたるキャリア形成を支援するという観点で校種や業界の垣根を越えた連携の重要性が話し合われました。平成25年度の議論を踏まえ、平成26年度は、高校・大学・大学生から話題を提供して頂き、「キャリアサポートから見る高大連携」のあり方について意見交換をする事としました。

教育担当理事伊藤成治先生のキャリアサポの仕組みを全学に進めたいという挨拶に続き、教育学部長戸塚学先生から「教育学部におけるキャリアサポート実習の単位化について」というタイトルで、ご講演を頂きました。

戸塚先生のご講演では、「キャリアサポート実習」に参加することにより「コミュニケーション能力」、「コーチング能力」、「ファシリテーション能力」、「プレゼンテーション能力」等の対人関係スキルを向上させることができる。そして、高校生と関わることで、現在や未来の自分を考え、自らキャリアデザインを描くことを目的とするという、単位化にあたっての狙いが示されました。授業内容が示された後、キャリアサポート実習を単位化することで、高校生へのキャリア教育と大学生のキャリア教育の具現化という、高校・大学が連携することにより、お互いWin-Winの関係を築くことができるということが述べられました。

次に、「青森県高大連携キャリアサポート推進事業」として、最初に、青森県総合社会教育センター副参事・育成研修課長の田中洋一先生から「キャリアサポートプログラムの事業内容について」というタイトルで、ご講演いただきました。

田中先生のご講演では、年齢が少し上で、近親感があり、頼もしい「斜めの関係」としての大学生からの働きかけ、高校生のやる気を引き出す、キャリア形成支援の仕組みを構築するという事業の趣旨の説明があり、その後、事業内容について示されました。そして、「キャリアサポ事業」では、高校生だけでなく事業に携わった大学生の「キャリア教育」にもなっているとの例示がありました。

次に、青森東高等学校教諭沼澤豊起先生に「高校でのキャリアサポートへの取組①」についてご講演頂きました。青森東高校の「キャリア教育」の実際の取組として、オープンキャンパスへの参加、大学模擬講義、職場体験、高大連携事業（キャリアサポ）などがあげられました。そして、キャリアサポ事業実施後のアンケート内容が紹介され、キャリアサポ事業終了直後のアンケート調査では、「大学生との交流は、自分を見つめ直し、現在や将来の自分を考える機会となった」と答えた学生が90%近くおり、キャリアサポ事業の有効性について示されましたが、6ヶ月後に行なわれたアンケート調査では、その割合が70%に下がったという持続性の変化について述べられていました。

次に、弘前中央高等学校教諭会津雅彦先生に「高校でのキャリアサポートへの取組②」についてご講演頂きました。ここでは、「キャリアサポ」導入のきっかけ、「キャリアサポ」の位置づ



けが紹介され、「キャリアサポ」を経験したことで自分に変化が現れた生徒が85%いたという事が紹介されました。そして、次のステップとして、身近な存在である大学生との「キャリアサポ」の体験を生かして、少し離れた大人（社会人）との対話の取組も紹介されましたが、今の自分と現実のギャップがあるという課題が出てきているということが述べられました。

次に、弘前大学教育学部学生奥谷和真君に「キャリアサポートプログラムの体験報告」の発表をして頂きました。研修と高校での実践活動で、自分磨き、自己実現、新しい自分の発見という体験ができたことや、他の大学生との交流から様々な価値観の発見や目指すべき仲間や先輩を見つけることができたという報告がされました。

「大学教育でのキャリアサポートについて」として、弘前大学学生就職支援センター副センター長小磯重隆先生に「地域の課題とキャリア教育」についてご講演頂きました。そこでは、最初にキャリア教育への弘前大学の取組があげられ、次に「地域の課題」として、「このままでは896の自治体が消滅しかねない」という増田寛也の一文が取り上げられ、地方に若者がとどまり、希望通りに子どもをもてる社会へ変わるための戦略を考えなければならない。そして、全国知事会における『次世代を担う「人づくり」に向けた少子化対策の抜本強化』の提言が示され、まだまだ地元就職希望の若者はおり、「雇用の場」と「良い労働環境」があれば、若者の地元就職は高くなると述べていました。

次に、弘前大学農学生命科学部准教授石塚哉史先生に「課題解決型学習（旧就業力育成事業）への取組」についてご講演を頂きました。そこでは、弘前大学による課題解決型学習とその目的と到達点が述べられました。そして、この学習の実践例として、道の駅ひろさき・サンフェスタ石川でのマーケティング強化があげられ、この取組で、学生は、「前に踏み出す力」や「考え抜く力」、「チームで働く力」に関するスキルが熟成されたと認識できたと述べていました。

パネリストとの討論では、「キャリアサポプログラム」の目標はどうなっているのかという質問が出され、田中先生が、目標はキャリア形成支援であり、「やる気を引き出す。」「自分の行きたい方向に向かって積極的

に進む。」「未来の自分を考えてみよう。」などが目標であるとの回答がありました。



高大連携の接続という事についてどう考えるかという質問に対しては、高校側、大学側のキャリア教育をすりあわせていくことで、今後答えが出て来るのではないかと戸塚先生の回答が得られました。

青森県総合社会教育センターの三浦先生からは、「キャリアサポ事業」の新聞記事の紹介があり、キャリアサポをやった直後は生徒たちの目の輝きが違ってく



る。そのことを一過性で終わらせるということがないように各高校での取組が必要であり、事前指導、事後指導の重要性が示されました。また、この事業は、高校、大学、行政のお互いの連携により、ますます発展していく可能性があるのではないかと述べられました。

閉会の挨拶として、21世紀教育センター長木村宣美先生から、キャリア教育のあり方については、大学でも高校と同じような課題を抱えており、高校側と大学側で意見交換をすることができるのではないかと。最後に、今回のシンポジウムでの発表及び討論を参考に、「新しい教養教育」の充実に向かっていきたいとの言葉がありました。